

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

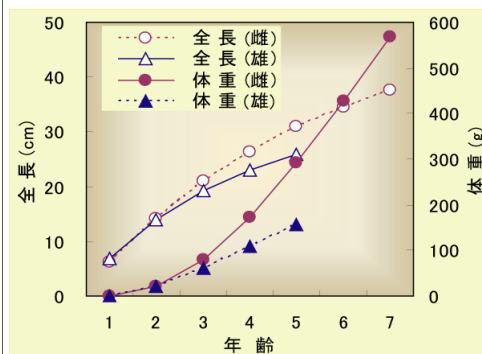
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

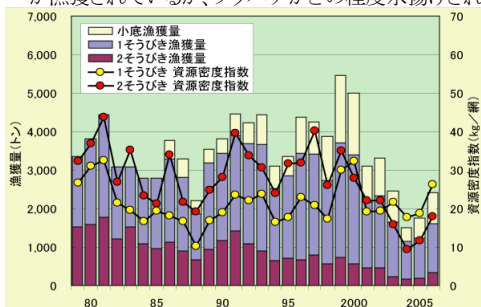


漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖合底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺し網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびき沖底の漁場は島根県以東の海域が中心であり、2そうびき沖底は対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

漁獲の動向

本種の総漁獲量は1986年以降大幅な増減を繰り返しながら推移しており、1999年には5,000トンを超えるピークをむかえるが、以後減少し2004年には1979年以降最低の1,510トンまで減少した。2005年以降は若干回復傾向を示し2006年には2003年水準の2,424トンであった。2006年に日本のEEZ内において韓国漁船により808トンのカレイ類が漁獲されているが、ソウハチがどの程度水揚げされているか明らかにされていない。



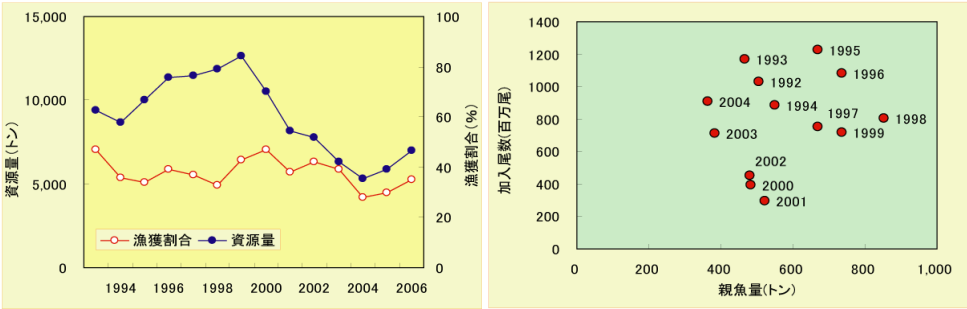
資源評価法

漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集し、漁獲物の生物測定結果とあわせて年齢別の漁獲尾数による資源解析を行った。

資源状態

資源量は1993年の9千トンから1999年の13千トンに増加した後、減少傾向を示し、2004年には5千トンにまで落ち込んだ。2005年以降の資源量は増加傾向を示しており、2006年には7千トンであった。加入量は1993～1998年には高い水準にあったが、1999～2001年にやや低下し、2002～2003年には著しく低くなったが、2004年以降上昇に転じた。親魚量は1993～1999年に増加した後、減少が続いている。再生産成功率は2002年まで減少を続けたが、2004～2005年は増加傾向を示している。



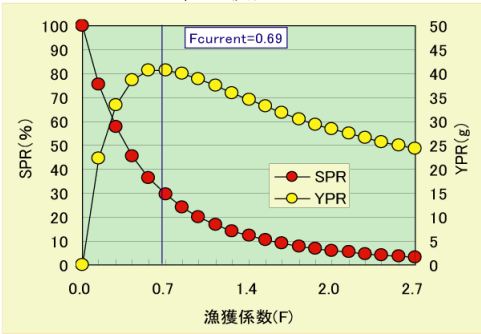


管理方策

2002～2003年に極めて低かった加入量は2004～2006年には回復した模様である。しかしながら、強い漁獲圧のもとではさらに減少する可能性があることから、若干漁獲圧を下げる事が望ましい。2006年に極めて大量の1歳魚の漁獲がみられたことにより卓越年級が発生した可能性が高い。今後の2006年1歳群(2005年発生群)の推移を注視する必要がある。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,300トン	0.8Fcurrent	0.55	32%
ABCtarget	1,900トン	0.8・0.8Fcurrent	0.44	27%

- 漁獲割合はABC／資源量
- F値は3歳魚のF
- Fcurrentは2006年の3歳魚のF



資源評価のまとめ

- 資源は低位水準にある
- 2004年以降の加入量は増加傾向にある

管理方策のまとめ

- 資源動向を注視する
- 若干漁獲圧を下げる事が望ましい

資源評価は毎年更新されます。